



室内環境学会会長就任にあたって

横浜国立大学

中井里史

本年より会長を務めさせていただくことになりました横浜国大の中井里史です。二年間どうぞよろしくお願いたします。会長就任にあたり、私の考えている室内環境学会の役割なども踏まえて、ご挨拶させていただきたいと存じます。

室内環境研究が係わってくる研究領域は多岐にわたっていることはいまでもありません。また、研究室での議論にとどまるだけではなく、実生活の中で役立てていく、さらには単に個々の知識を適用するだけではなく、複合的システムとも言える室内環境に多面的な角度から役立てていくことが重要です。どこか一面だけの検討では、重大な問題を生じかねないのが室内環境の領域であると私自身は認識しております。学会員、特に研究者の皆様には、それぞれの専門分野での研究を深めていただくことはもちろんのこととして、普段の研究の中では接することが無い他分野の方々との連携を深め、総合的に日常生活の中で役立ててこそ室内環境研究かと思えます。そのためには、日常生活者としての視点も踏まえた学会活動を進めていく必要があります。学会長という立場からは、研究という側面だけではなく、講演会、シンポジウム、講習会などにおいて、多くの分野の研究者が異なる観点から意見を述べ、議論し、また個別の知識だけでは対応できない日常生活においてどのように学会としてアプローチしていければよいかということを考えることのできる場を何とか作っていかねばと思っております。

さらには、これまで副会長や社会連携委員長などとして学会で携わってきた経緯もあり、私に課されたミッションとして、以下の二点も挙げる事ができます。一つは学会の一般社団法人化であり、もう一つは日韓台の室内環境学会間の学術協力の推進です。

おそらく本誌が刊行される頃には一般社団法人としての学会が、あらたにスタートしていると思っております。一般社団法人化は、学会を公的な団体とすることにより、より様々な事業に携われる機会を増すために行うものです。これまで学会として、受託研究などを受けること、さらには研究費取得などを行うことは難しかったのですが、法人化を一つのきっかけとして、学会員個々人の研究等の活動にも加えて、学会としての活動を広げて行ければと考えております。いわば学会として攻めの立場をとって行ければ、いや攻めの姿勢をもっていかなければと考えています。

日韓台室内環境学会では、数年前にMOUを結んではおりましたが、特に日本の室内環境学会はホストとして、ほとんど何も活動を行ってきませんでした。ようやくと言いますか、昨年末の学術大会の際に、韓国および台湾の室内環境学会からゲストスピーカーを招いて、国際シンポジウムを開催しました。室内環境の状況や、社会に対する学会の責任などに違いが認められていることにお気づきになられたのではないかと思います。他国の状況ばかりに目を向けるだけではいけません、これまで我々が持っていなかった視点や考え方に触れる絶好のチャンスだと思っております。せっかくの機会です、三国間、場合によればその他の国も含めた学術協力を進めていきたいと考えています。役員会等で議論しておりますが、三国間での学術誌掲載論文の情報交換、学術大会での国際シンポジウムでの相互開催、そしてまだ端緒についたばかりでどのようになっていくか明確ではありませんが、英文雑誌の共同刊行などが具体的な作業となります。

一方、さまざまな研究・事業を行うためには予算的措置も必要となってきます。残念ながら現状の室内環境学会の財政的状況は決して芳しいものではありません。そのため、各種の活動に不便をおかけしてしまっているかと思っています。芳しくない財政状況に関する理由の一つとして会員数が減少傾向にあることを挙げる事ができます。どのようにすれば会員数を増やすことができるのか、室内環境学会にかかわらず、多くの学会が抱える問題です。法人化をすることで、さまざまな活動に積極的に関わられるようにするというのも学会活動を活性化し多くの方に学会に興味をもっていただく、ひいては学会活動の輪の中に入れていただくための一環です。もちろん、それだけでは十分ではないことは間違いありません。もし、学会として実施した方がよいと思われる活動がありましたら、是非ご提案ください。また、必ずしも全会員の方の研究に係わってくるものではないかもしれませんが、厚生労働省シックハウス問題検討会が活動を再度スタートさせました。様々な分野の方がそろそろ室内環境学会として、何か貢献できないか、またどのように貢献していけばよいかを、改めて考えて行く必要もあろうと思っております。

研究も含めた学会運営には会員の皆様のご協力も必要です。どうぞよろしく願いいたします。

